

安曇野市つながりひろがる協働推進委員会 会議概要

1	会 議 名	令和7年度 第1回安曇野市つながりひろがる協働推進委員会
2	日 時	令和7年8月8日(金) 午前9時30分から午前11時30分
3	会 場	安曇野市役所本庁舎 3階 共用会議室 305
4	出 席 者	磯野会長、細川副会長、百瀬委員、宇都委員、藤尾委員、宮澤委員、古越委員、山田委員、小澤委員、亀井委員、川崎委員、若林委員、蓮井委員 計13名
5	市側出席者	赤沼市民生活部長、地域づくり課 児玉課長、金子係長、百瀬主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和7年8月22日

協 議 事 項 等

1 概要

- (1) 開会
- (2) 市民生活部長あいさつ
- (3) 自己紹介
- (4) 安曇野市つながりひろがる協働推進委員会設置要綱について
- (5) 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長：磯野康子委員、副会長：細川博水委員を選出

- (6) 安曇野市つながりひろがる協働推進計画について
- (7) 報告事項

①安曇野市市民活動サポートセンターについて

(委員)

- ・市民活動サポートセンターは、単発の交流イベントだけではなく、常に人が集まりつながれる「場」としての機能が大事。

(委員)

- ・以前は「わの会」が団体を束ねて、センターの管理をしていたが、指定管理が実現できず、今の市役所の窓口をサポートセンターが動いてきた経緯がある。
- ・団体の皆さんには、交流や打合せができるスペースが欲しいという要望がある。サポートの要は人ではあるが、複数の団体が集まってつながる環境が必要。
- ・委員の皆さんから、望ましいセンター像について意見をお聞きしたい。

(委員)

- ・NPO 法人を立ち上げる前にくるりん広場で相談し、法人化につながった経験がある。当時、市民活動の先輩方や行政も相談にのってくれて、学びの場でもあった。そのイメージがサポートセンター像として今も残っている。

(委員)

- ・当時「わの会」は会員制で、自分事として掃除や企画をやっていた。指定管理に移行することができず、会議室等が使えないことから、その後利用が減った経緯がある。「場の大切さ」は本当に実感している。
- ・行政からサポートも受けるけど、自分たちでやりたい、という思いがある。

(委員)

- ・社協の「ささえあいセンター」も市条例で設置され、機能的にはサポートセンターと重なる部分がある。両センターの一体化ができればいい。

- ・社協支所のボランティアセンターも含め、市民活動サポートセンターが大きく機能をまとめる形が望ましいと思う。

(委員)

- ・当時「くるりん広場」の熱意は素晴らしかったが、広げるのが難しかった印象。ただつながりの場は非常に大事で、今後進めて欲しい。

(委員)

- ・市民活動の拠点ということで、当初はセンター名に「サポート」は付いていなかった。その後「サポート」を入れた理由をしっかりと考えて運営をやっていく方がいいと思う。

(委員)

- ・サポートが後からついたのは、「行政が支援する」という意味だけでなく、「団体同士で支え合う」という意味合いだった。

(委員)

- ・行政がサポートするという感覚で受けていたが、そうではなかったと。

②令和7年度に市が市民等と実施する協働事業について

- ・質問等なし

(8) 協議事項

①計画の推進及び検証・今後の予定について

(事務局)

- ・視察研修は任期中に1回を計画。今年度は実施せず、来年度の実施を計画。

(委員)

- ・検証の際に定量的なデータは必要ではあるが、まちづくりや協働の場合には、定性的な質の部分も重要。事業や取り組みで起きたつながりやひろがりなどの変化を可視化する工夫が必要。
- ・福祉関係の人がつくるエコーマップのようなものがあると良い。
- ・定性的な評価があると、委員が検証の時に、事業の進捗や課題がわかりやすくなる。

(事務局)

- ・定性的評価も取り入れるよう努めたい。過去の事例があれば紹介をお願いしたい。

(委員)

- ・効果や成果を測る物差しが不明確。日本の社会状況を考えると、コミュニティの強化を基盤とする評価基準が必要。

(委員)

- ・学校運営協議会で、地元の小学校と地域の大人が取り組みを一緒にしている。地域の子どもと大人がお互いに助け合えるつながりを目標としている。この目標を見えるようにやっていく必要がある。

(委員)

- ・効果や成果を測る物差しとして、講座を開催する場合、受講前後の変化の確認が必要。また、受講後のフォローアップも今後サポートセンターに求められる。アウトリーチが必要になるので、コーディネーターがアウトリーチしやすい環境づくりも大切。

(委員)

- ・参加人数で評価するのでは不十分。人づくりや市民としての生き方の変化を端的に評価できれば良いが難しい。今年は定性的な評価手法をテーマの一つとして考えていったらどうか。

(委員)

- ・ 定性的な指標は難しいが大切なのはわかる。委員の皆さんには、評価の観点からも、サポートセンターの事業に積極的に参加してほしい。
- ・ サポートセンター通信について、委員からもテーマの提案などをお願いしたい。

(委員)

- ・ サポートセンターは多様に活用ができる。サポートする人、核となる人材が非常に重要。

(委員)

- ・ サポートセンターの今後について、具体的な動きが見えるよう、毎回議題に入れてほしい。

(委員)

- ・ まだ実施前の市民活動フェスタについて、評価指針を定めて実施してみたらどうか。

(事務局)

- ・ 市民活動フェスタは、参加団体からアンケートを取り、評価・改善に活用しており継続していきたい。昨年度までは有志市民による企画運営だったが、今年度は参加団体と一緒にフェスタをつくっていく機運を高めようと、予め参加団体交流会を実施した。

(委員)

- ・ 実施者と参加者という視点に立って考えた時に、実施者の意味では、評価の物差しは重要。同時に参加者の立場では、参加者が主体性を持つことが一番大事。一緒につくっていく気運を高めることが非常に重要。ホームページでの人材紹介や、参加してよかったという成功体験が、成長志向の土壌醸成につながる。

(委員)

- ・ 質の部分が評価できれば非常に良い。
- ・ サポートセンターを堀金支所に設置する方向性は、市のバランスにとっても良い。
- ・ 団体として今年も市民活動フェスタに参加する。一緒に盛り上げていきたい。

(委員)

- ・ 定性的な効果の測定は難しいが大切。研究成果の発表や運営スタッフの育成など、組織運営には2つの効果が必要。
- ・ サポートセンターの移設が実際に動いているのを感じて心強い。

(9) その他

(事務局)

- ・ 委員には市で災害補償保険に加入をしている。万が一、委員会中及び行き帰りで事故等あった場合は、保険の対象となることがある。何かあれば事務局にご連絡いただきたい。

(委員)

- ・ 効果測定を専門に研究しているので協力できる。

(10) 閉会